

産業の育成・振興に関する調査特別委員会を開催しました

「産業の育成・振興に関する諸方策の在り方」について中間報告を行いました。

今年3月に15名の委員で設置された本委員会(山岡恒夫委員長)では、県に対し産業活性化の推進を促す提言を行うため、「産業の育成・振興に関する諸方策」について調査検討を進めています。

調査に当たっては、国の動向を把握するとともに、県執行部から県の取り組みの現状・課題などについて説明聴取を行いました。また、第4回委員会(8月22日開催)では、株式会社カスミ代表取締役社長の石井俊樹氏をお招きするなど、活発な議論を行ってまいりました。

今定例会では、県で来年度に向けた予算編成が開始されるこの時期にあわせて、最終日(9月26日)に中間報告を行いました。

中間報告では、企業誘致を促進するための環境づくりや、科学技術やものづくり、農業など本県の特徴や地域資源を生かした取り組みを重点的に進めていくことなど、委員会での調査検討の内容が予算や組織体制などに適宜的確に反映され、効果ある施策が速やかに実施されるよう知事に求めました。

今後も、次回定例会での最終報告書の取りまとめに向け、引き続き精力的に調査検討を進めてまいります。



中間報告を行う下路健次郎副委員長

茨城県議会 ICT 化検討会議を開催しました

今年3月に12名の委員で設置された本会議(白田信夫座長)では、議会のICT化について調査検討を進めています。

第3回会議(7月22日開催)では、ICT化の方向性について検討を行いました。また、第4回会議(8月30日開催)では、各会派から提出された意見をもとに、ICT化を進める上での課題や整理すべき事項などについて、さらに検討を行いました。

今後は、10月の県外調査を経て、12月の第5回会議において、議長に答申を行うための案を取りまとめる予定です。

要約筆記を試験的に実施しました

今定例会では、聴覚に障害のある方の議会傍聴に対応するため、9月9日の本会議・一般質問において、要約筆記を試験的に実施しました。議員の質問と執行部の答弁を要約して傍聴席のモニターに映し、5名の傍聴者が利用しました。



議場における要約筆記の様子

代表質問(要旨)



設案 詠美子 議員
県民フォーラム
筑西市選出
分割方式

高齢者・障がい者として、妊産婦のための広域デマンドタクシーの充実

議員 高齢者などから通院や日常生活の移動手段確保を心配する声がある。隣接市町村の病院への乗り入れなど、市町村を越えた広域デマンド型タクシーの充実が必要と考えるが、所見は。
知事 市町村での取り組みを、地域協議会などの場を通じて情報提供や助言を行い後押ししていく。交通事業者などと連携し、地域実情に応じた取り組みを総合的に支援し、公共交通ネットワークの充実に取り組んでいく。

議員 被害者支援のため「性暴力被害に係るワンストップ支援センター」の充実

力被害者サポートネットワーク「茨城」が設置された。医療的ケアや証拠の採取ができるような病院拠点型へ発展させ、二十四時間三百六十五日の相談体制を目指すなど、さらなる支援の充実が求められるが、知事の考えは。
知事 新たに国の交付金を活用し、相談時間の延長や支援員の確保、医療費支援の拡充などを進めていく。病院にワンストップの相談窓口を設けることは、産婦人科医療や相談など総合的な支援を受けられるメリットがある。提案を踏まえ、関係機関と今後の在り方を検討していく。

議員 県立高等学校の設備等の充実

境の整備をどう進めていくのか。また、体育館など老朽化した施設の整備改修を計画的に行う必要があると考えるが、所見は。
教育長 ICT環境の充実について、試験的に一部で導入していた授業支援システムを、令和二年度には全県立高校で活用できるように準備している。老朽化した学校施設は緊急性に応じ速やかに改修を行い、併せて長寿命化計画の策定を進めている。(ほかに、母子家庭への住宅支援、保健所の歯科医師・歯科衛生士の配置、外国人が暮らしやすい茨城づくりなども質問)

議員 認知症対策への取り組み

予防であり、特に「共生」を進める上で、生活支援ニーズに 대응する施策が重要である。超高齢社会を展望し、認知症対策にどう取り組むのか。
知事 共生に向けた取り組みとして認知症サポーターの活躍の場を広げるとともに、認知症の方が自ら相談や仲間づくりをする活動の推進など、認知症になっても自分らしく暮らし続けられる社会の実現を目指す。また、「元気アップ!りいばらき」※1の活用など、認知症予防につながる取り組みも充実させていく。



八島 功男 議員
公明党
土浦市選出
一括方式

いじめ根絶とSNS活用の悩み相談

議員 いじめ根絶には、強い決意と明確な発信力が必要である。LINEによる悩み相談の通年運用を実現し中高生の心の苦難を分かち合い問題の深刻化を防いでほしい。いじめ根絶に向けた決意と今後の取り組みは。
知事 八月に開設したSNS相談窓口には九月一日現在で、五百六十六件の相談が寄せられた。内容などを分析し、開設時期や期間の見直しを含め、改善を検討していく。相談体制の充実を図り、子どもたちのSOSをしっかりと受け止め、いじめ根絶に全力で取り組んでいく。

議員 結婚観の変化などに的確に答え、新しい結婚の形とライフデザインを、若い方などへ広く提案していくべき。今後の結

婚サポートへの取り組みは。
知事 高校生対象のライフデザインセミナー開催など、若い世代に結婚の素晴らしさを伝えるとともに、若者が利用しやすいマッチングシステム導入の検討など出会いの機会創出に努め、結婚支援充実に取り組んでいく。(ほかに、在留外国人材の活躍推進、SOGIハラスメント※2対策なども質問)



子どもたちのSOSをしっかりと受け止める相談体制の充実を(LINEでの相談対応)

※1 【元気アップ!りいばらき】…ウォーキングや健診受診などの健康づくり活動にポイントを付与し、そのポイントを景品などと交換できる「いばらきヘルスケアポイント」参加に必要な県公式アプリ。
※2 【SOGIハラスメント】…SOGI(ソジ)は、好きになる人の性別を表す性的指向「Sexual Orientation」と、自分が認識する性別を表す性自認「Gender Identity」の略語で、性的マイノリティの方たちへの差別的な発言や嫌がらせなどを指す。